

対象：小学生の保護者及び中学生向け

TOEFL Primary® / TOEFL Junior®

自分の力を知る大切さ —自分の英語力の成長と受験の価値—

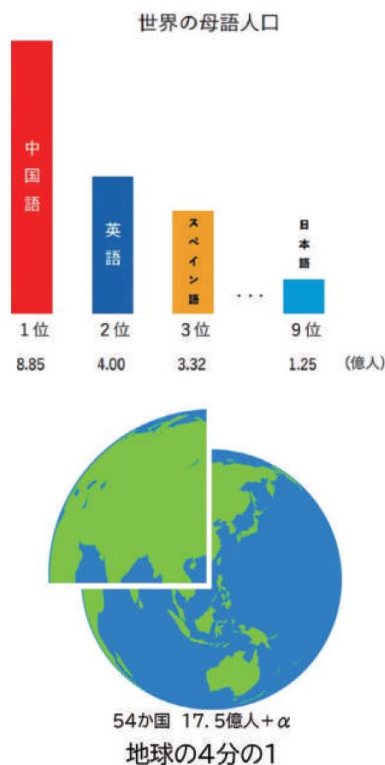
京都教育大学附属京都小中学校 英語科主任
ETS公認TOEFL Primary® / TOEFL Junior®トレーナー
メタメトリックス公認レクサイルエデュケーター
一般社団法人国際教育英語試験協会アドバイザー
今西 竜也

目次

1. はじめに	p.1
2. 日本のテストVS世界基準のテスト	p.2
3. テストの範囲	p.3
4. テストが測っている力とは	p.4
5. テストに挑戦するタイミングと点数	p.5
6. テストは「やったー!」「がっかり…」ではなく、確かな 成長のための「道しるべ」	p.6
7. おわりに	p.7

1. はじめに

日本語を母語として話す人は、世界で何人くらいいるのか知っていますか。もちろん日本人は日本語を話しますが、日本以外で日本語を母語とする国はありません(パラオの一部地域では日本語を公用語とする場所があるそうです)。文部科学省の資料を見てみると、日本語を母語として話す人は世界で1億2500万人程度で日本の人口とほぼ変わらず、世界では9位です。では世界で母語として話している人が一番多い外国語は何でしょう。それは英語ではなく、中国語です。中国語は8億8500万人ほどの人が話していて、それは世界人口80億人うち、10人に1人が中国語を話して生活しているということです。では英語はというと、世界で2位ではあるものの、イギリスやアメリカ、オーストラリアなどを含めても英語を母語とする人は4億人程度しかいないのです。しかしながら、世界約200か国のうち英語が第一言語、公用語、準公用語となっている国は世界で54か国あり、それらの人口は世界の4分の1にも達します。さらに日本やタイなどのように英語を習っている人々を合わせるともっと多くなります。

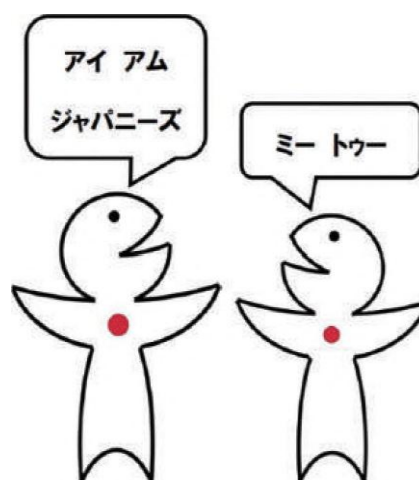


英語を使えば、世界の4分の1以上の人とコミュニケーションが取れます。しかし、英語を勉強するだけでは十分ではありません。英語はコミュニケーションのための道具ではありません。例えば英語の力を身に着けたとしても、英語が話されている国に行けば周りのみんな全員が英語を話しますから、特別な力ではないのです。大切なことは、英語を使って何をするのかということです。外国人と友だちになったり、ビジネスをしたり、国同士の大切なことを話し合ったりもできるの英語を、単なる知識ではなく、使える道具として身に着けていくことがとても大切なことです。英語を、あなたの一つの能力として身に着けていくうえで重要になってくるのが、自分の英語の力を測り、知り、伸ばしていくことであり、TOEFL Primary® /TOEFL Junior®を活用してより良く英語の能力を自分の力にしていくことができます。

2. 日本のテストVS世界基準のテスト

学校のテストを含め、日本にはたくさんの英語のテストがあります。それらのテストとTOEFL®との大きな違いは、日本人のためのテストなのか、世界中の人のためのテストなのかという点です。日本のテストは日本で暮らす人々が理解可能な状況の問題が出されます。また日本で英語が得意な人が高い点数を取ることができる内容になっている場合が多いです。しかし考えてみてください。私たちが日本で英語を使う機会がどれほどあるでしょうか。また私たちが、日本人と英語を話す機会がどれほどあるのでしょうか。学校の授業ではそんなこともあるでしょうが、私たちが実際に英語を使う必要がある機会は、外国の人と話す場合と、私たちが外国に行く場合がほとんどです。つまりたくさんの外国を含めた世界基準で自分の英語の力を知らなくては、役に立たないかもしれないということです。

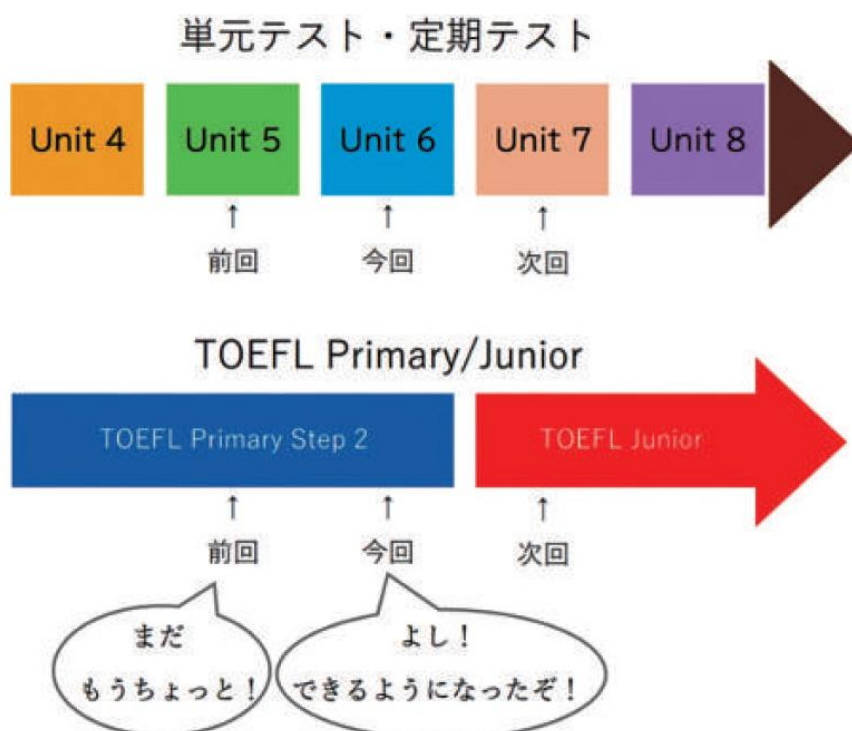
TOEFL Primary®/ TOEFL Junior®は、世界の英語を母語としない人々を対象に作られています。英語を使ってコミュニケーションを図る上で大切な内容を、受験者の英語の力に合わせて出題しています。英語が使われる実生活に近い環境設定で、実践的な表現を用いながら出される問題に挑戦することによって、自分の英語が、外国で、外国の人に対しどれだけ通用するのかを知ることができるのです。



3. テストの範囲

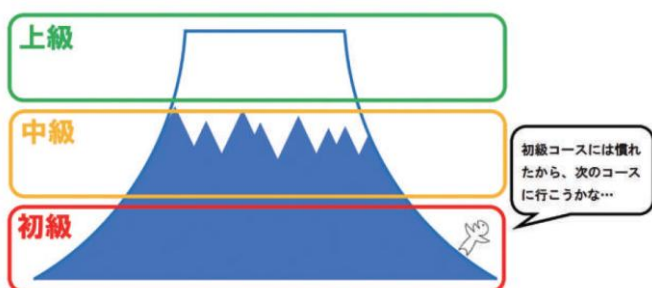
学校で単元テストや定期テストを受ける際に気になるのがテスト範囲です。教科書を使って授業で学習してから受けるテストには、テスト範囲が設定されています。「友だちを紹介しよう」とか「比較表現(最上級・比較級)」のように内容や文法、教科書のページ数などを設定されている場合がほとんどです。しかし一度テストを受けると、その内容は以後テストに出題されることはほぼありません。一つ一つの内容をしっかりと学んでいくことは大切ですが、いったんテストをしてもう終わりでは、そのうち忘れてしまったり使えなくなったりしても気が付くことはありません。実際に英語を使う場面を想像してみてください。一つの内容や文法だけで成立することはありませんし、それまでに学んだ内容をすべて効果的に使って、話したりメールでやり取りしたりすることがほとんどです。

TOEFL Primary®/ TOEFL Junior®は内容や文法を切り取ってテスト範囲にするのではなく、受験する人に合わせて試験の範囲を設定しています。つまり学校のテストは毎回テスト範囲が変わりますが、TOEFL Primary®/ TOEFL Junior®は異なる問題が出ますが、測定している英語の力は毎回同じです。そのためにTOEFL Primary®のStep 1とStep 2、TOEFL Junior®でそれぞれ自分の力に合わせてテストを受けていくのです。



4. テストが測っている力とは

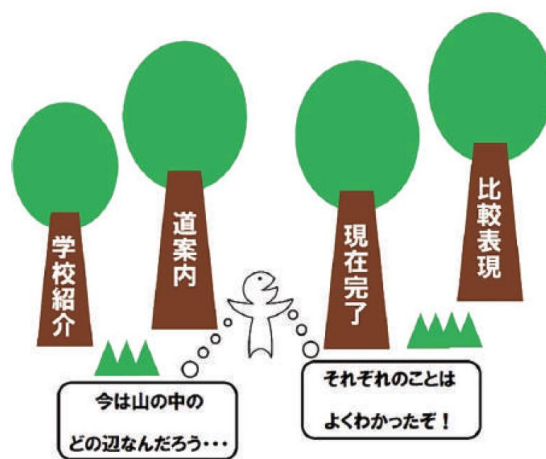
英語の力を山登りにたとえてみましょう。山もふもとの初級コースは、ハイキングに最適のなだらかなコースです。中級コースは傾斜が強く、体力がある人でないと厳しく、経験も必要でしょう。上級者コースになると、岩場を登ったりや生い茂った草木をかき分けたりして進まなくてはならないかもしれませんし、必要な装備も変わってくるかもしれません。



TOEFL Primary® / TOEFL Junior®はこれらのコースの中でどれほど山登りの力があるのかを測定します。対して単元テストや定期テストは、山に生えている一本一本の木を詳しく調べているように捉えられます。もちろんこれは大切なことで、それぞれの内容や文法がどのような働きをするのか、どのような決まりや特徴があるのかをしっかりと身に着けます。十分に理解できていないと、間違った英語を話してしまって、最悪の場合は相手に伝わらないことだってあるでしょう。

そしてさらにそれらを十分に活用して、山道を歩き回る力も必要なのです。実際に英語を使用する場面は、教科書や問題集の範囲に制限されていません。スピードの速さや発音のなまり、知らない単語の含まれる割合など、様々な要因が加わってきます。

「木を見て山を見ず」と言われるように、一つ一つの内容や文法の身にとらわれるのではなく、個々の学びを互いに関連付けたり、状況の設定を理解したりして、英語の実践的な力を総合的に学習を進めることが大切なのです。そしてそれぞれのテストにおいて十分に熟達したかを確認したら次のテストにレベルアップすることで、着実に英語という山を克服していけるのです。

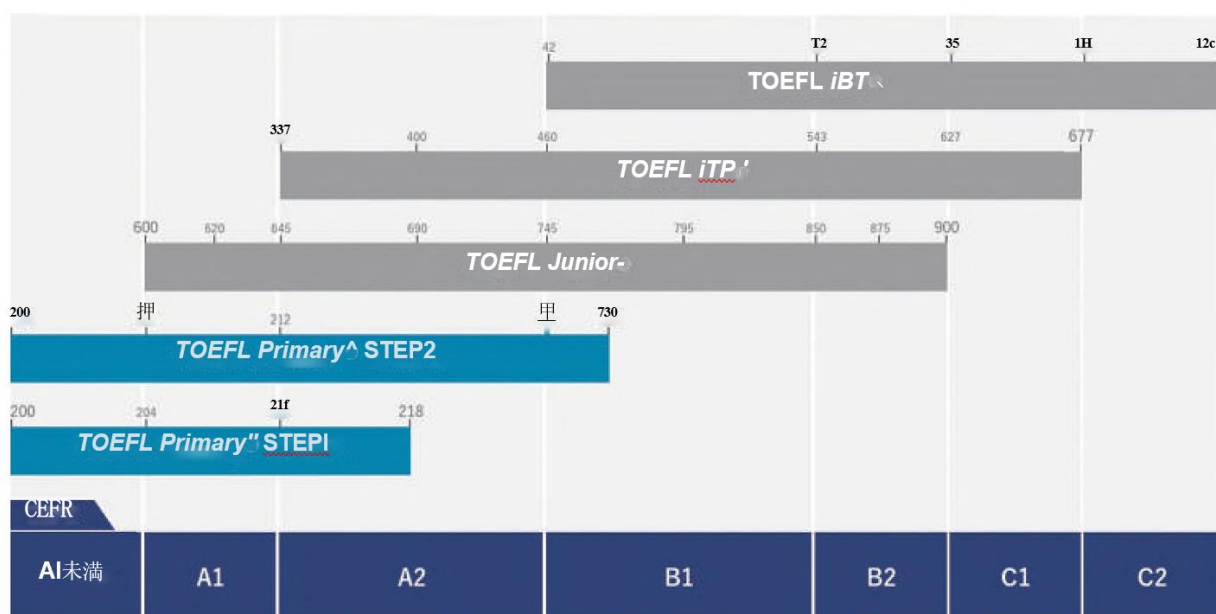


5. テストに挑戦するタイミングと点数

テストを受けるタイミングは、目的によって異なります。学校で行われる単元テストや定期テストは、一定の内容や文法の学習が終わったらテストを受けます。学習した範囲に焦点を当てて、集中的に学習することができますので、テスト前に徹夜で勉強するような人もいるかもしれません。習った内容がどれだけ理解できたかという点ではこのタイミングでテストを受けることはよいかもしれません。しかし、どれだけ英語の力が身についているのかということを考えると、学習の内容や量に関わらず、定期的にテストを受けていく必要があります。身長や体重を測るように、毎日ではなく、期間を決めて定期的に測ることによって、自分がどれだけ成長したかがわかるのです。

点数のつけ方もテストによって異なります。単元テストや定期テストは100点満点であることが多いでしょう。検定などの資格のテ

ストは合格か不合格で結果が出ます。TOEFL Primary®/TOEFL Junior®は200点から始まり、自分の英語の力が成長するにつれてどんどん増えていきます。まるで身長のように自分の英語の力がどれくらい伸びてきているのかを実感することができます。また学校のテストでは、問題の解答を間違えるたびに100点から点数が下がっていきます。しかしTOEFL Primary®/TOEFL Junior®では、自分のできることが増えるたびに点数が伸びていくのです。初級者向けのTOEFL Primary® Step1 から始まり、Step 2、中級者向けのTOEFL Junior®へと続いていきます。またそれぞれのテストの結果はヨーロッパで開発された言語指標であるCEFRで表され、自分が今どのくらいのことが英語でできるようになっているのかを確認できます。



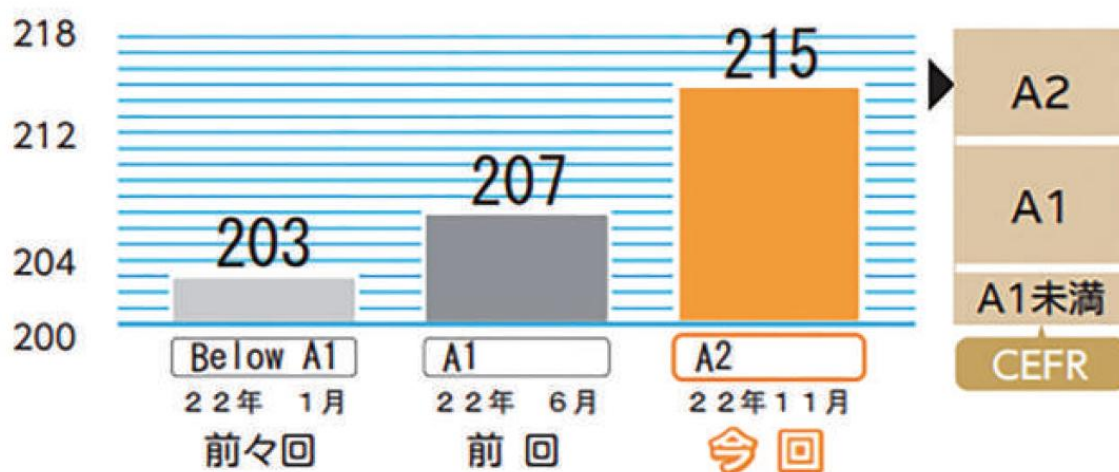
6. テストは「やったー!」「がっかり…」ではなく、 確かな成長のための「道しるべ」

テストの点数で一喜一憂する人も多いかと思いますが、テストはあなたの力を測って、良い悪いを突き付けるためのものではありません。テストの本質は自分自身の力を知るものであって、大切なのはテストの結果を見て、どのように進んでいくのかということです。定期テストでは、テストまでの一定の期間、模試では本番のテストまでの期間に焦点が当たってしまいがちですが、TOEFL Primary®/TOEFL Junior®ではもっと壮大に、あなたの英語のゴールまでの道を示してくれています。自分の得意なこと、苦手なことを知り、今自分に必要な力は何か、効果的な学び方は何かを知りながら、成長していくために自分をすることが重要です。

また、TOEFL®は留学するためのテストだと思っている人もいますが、留学のために点数を上げるのではなく、英語を使って学ぶだけの力がついているのかを判断するためTOEFLの点数が使われています。つまり海外に行って、専門的な内容を英語で授業を受け

たり英語で質疑応答したりして、学んでいくかということです。英語の力が上がることを目的としているのではなく、英語を使って何ができるのかということに焦点が当たっているのです。

日本では昔から空手やそろばんのように、段や級の合格・不合格で自分の実力を証明することが多いですが、TOEFL Primary®/TOEFL Junior®は自分の実力をスコアで表すこともその特徴の一つです。合格・不合格で結果を出してしまえば、あとちょっとで届きそうな人も全然合格しないような人でも同じ「不合格」になってしまいます。また「合格」はある一定の基準をクリアすると「合格」になってしまうので、合格したら自分の弱点や不得意な内容に目を向けて、さらに成長させることができません。その点、合格・不合格ではなく、自分の力をスコアで示されることによって、テストの内容の中で、どれほど自分が熟達しているのかを見て取ることができます。



7. おわりに

英語の学習では、英語に関する知識や技能ばかりでなく、英語の話されている地域やその文化についての知識も増やしていかななくてはなりません。そのためには教科書だけでなく、英語の文学や映画、音楽に触れることもよい学習になるでしょう。特に英語の本を読むことは効果的です。TOEFL Primary®/TOEFL Junior®のスコアレポートに示される読解能力の指標(LEXILE)を活用して、英語を話す人たちが読む本を自分のレベルに合わせて選び、読むことにも挑戦してみましょう。映画では英語の表現だけではなく、街の風景や人々の動作など、英語を話す人に共通するたくさんの文化の違いが見えてくるでしょう。

英語の向こう側には、必ず人が存在するので、テストはみなさんを苦しめるものではなく、これから成長していくためのアドバイスです。英語の力の全体像は巨大で、短い期間で簡単に習得するのには無理があります。だからこそ時間をかけながら効果的に、いろんな切り口から前に進んでいかなければなりません。そのために必要なのが、自分自身にどんなことができ、何を苦手としているのかを知ることです。それらを理解したうえで、日々の学習の進め方や丁寧に課題に取り組むことを意識して自分に合った成長を描いていきましょう。

著者紹介

今西 竜也

所属: 京都教育大学附属京都小中学校 英語科主任

学歴: 京都教育大学大学院教育学研究科修了

在籍: 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程、英語教育の研究

編集協力: 三省堂 クラウンジュニア

資格: ETS公認TOEFL Primary® /TOEFL Junior® トレーナー

メタメトリックス公認レクサイルエドゥケーター

